



平成30年度

予 算 概 要

抜 粋 版

道 路 局

平成30年度 道路局予算案について

1 基本目標

「チーム道路」の総力を結集させ、市民生活や横浜経済を支える強靱な都市基盤を構築し、安全・安心で愛される道路・河川空間づくり、災害に強いまちづくりを実現します。

2 取組の重点

(1) 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備

～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

横浜環状道路の早期整備を実現することで、高速道路ネットワークを充実させ、横浜港の国際競争力の強化をはじめとする広域的なアクセス性の強化、災害時のリダンダンシー（多重性）の確保、幹線道路における渋滞の緩和などを図ります。

都市計画道路等の整備を着実に進め、市民生活における利便性・安全性向上、市域の一体化を図るとともに、ボトルネックとなっている交差点の渋滞対策、「開かずの踏切」の解消に向けた連続立体交差事業等にも積極的に取り組みます。

米軍施設返還跡地の利用など、まちづくりにあわせた効果的な道路整備を進めます。



整備中の横浜環状北西線



連続立体交差事業(星川～天王町)

(2) 市民生活の安全・安心の確保

～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、ソフト・ハード両面から防災・減災対策を着実に進めるとともに、無電柱化の推進等に取り組みます。

様々な施策を実行し、生活道路や通学路における安全対策を進めることで、子どもや高齢者など誰もが安全・安心に利用できる道路空間を実現します。

老朽化する施設が加速的に増加する中で、計画的な保全・更新、日々の維持管理に加え、道路照明のLED化等による環境対策を進めることより、将来にわたる安全性の確保を図ります。



水防災情報システム(洪水時カメラ画像)



狭さく・ハンプの社会実験(大倉山)

(3) 魅力あるまち・みちづくり

～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

歩行空間のバリアフリー化や自転車利用環境の向上に取り組むとともに、市民に身近なバス・タクシー等の地域交通の維持・充実など、まちの利便性の向上に取り組みます。

「健康寿命日本一」の実現に向けた健康みちづくり等の推進、生物多様性に配慮した河川環境などにより、まちの魅力を高めていきます。

「ハマロードサポーター」や「水辺愛護会」の道路・河川の美化活動支援や、こども達の身近な自然体験活動の場となる「水辺の楽校」開催の支援など、市民・事業者・学校など、多様な主体との協働による取組を進めます。



健康みちづくりの推進



水辺の楽校(梅田川)

主な事業・取組

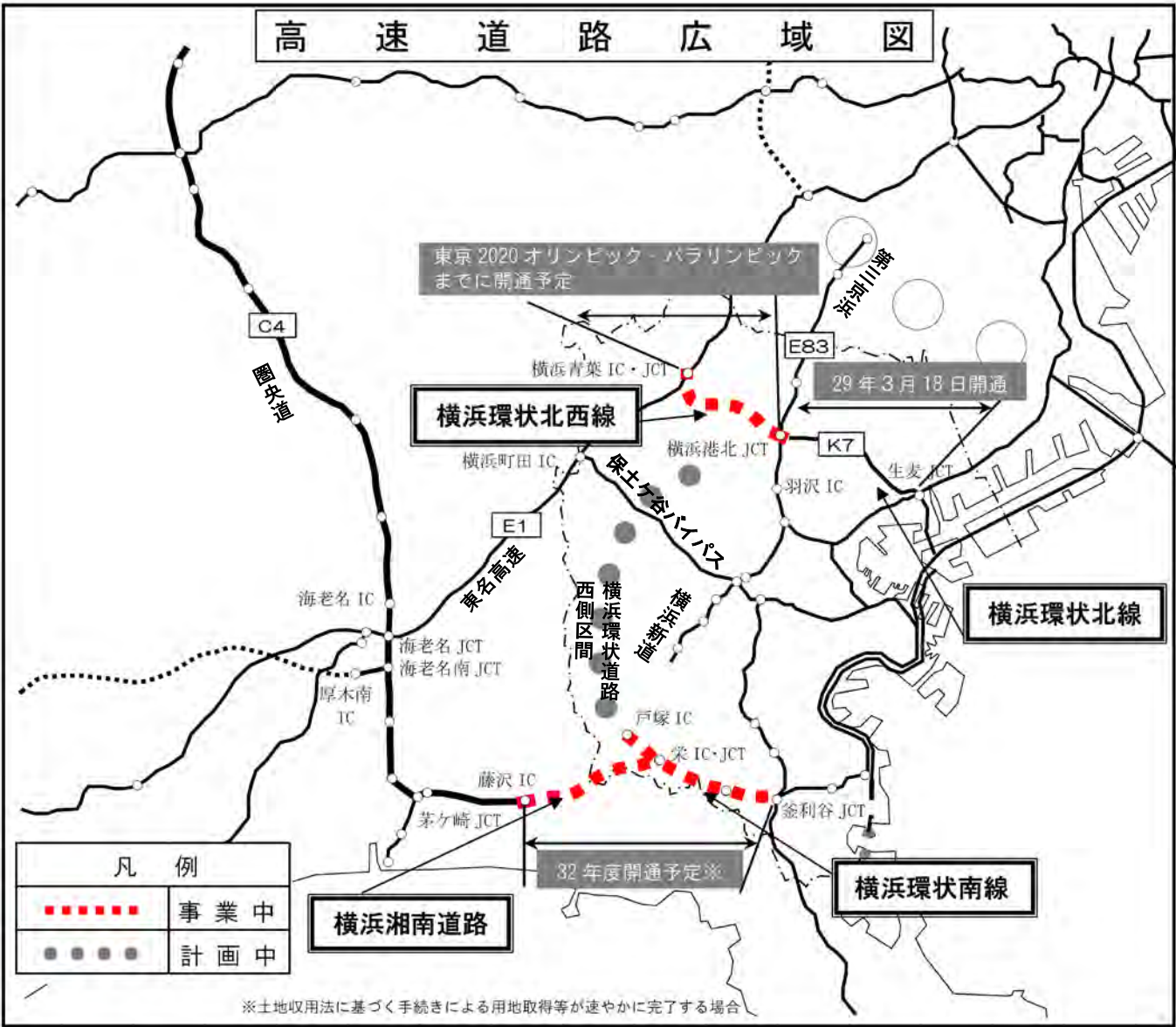
I 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備
～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

1 広域的な道路ネットワークの形成

横浜環状道路等の整備 351億9114万円（334億8657万円）

平成29年3月に開通した北線に引き続き、東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指し、北西線の整備を進めます。

また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部を構成する南線及び横浜湘南道路の整備促進を図ります。



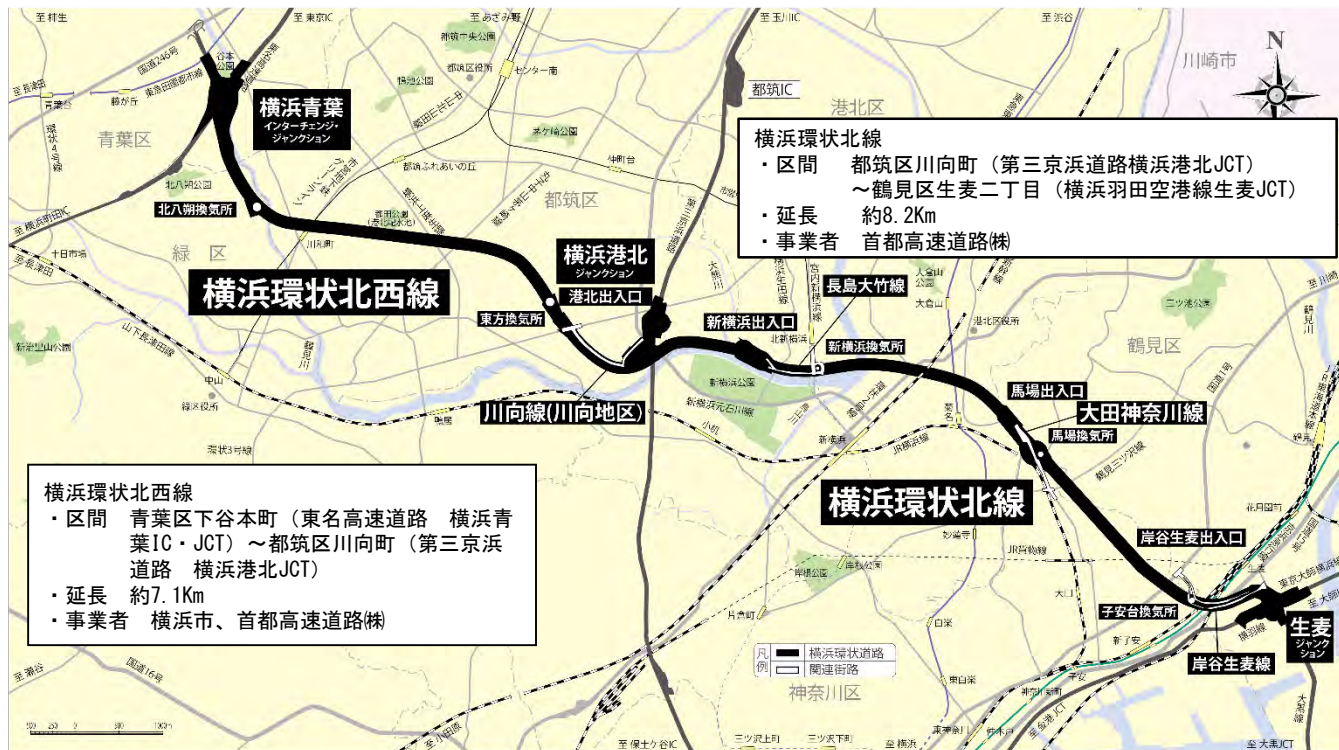
ア 横浜環状北西線

229億9024万円 (207億9427万円)

共同事業者である首都高速道路株式会社と連携し、引き続きシールドトンネル工事や橋梁工事、換気所工事等を進めます。

また、本線と一般道路を結ぶ川向線などの関連街路の工事を進めます。

なお、事業費負担の平準化を図るため、平成29年度に引き続き首都高速道路株式会社による立替施行を実施します。（平成30年度立替施行予定額 約146億円）



橋りょう工事(青葉区下谷本町)
(平成29年12月)



シールドトンネル坑内
(平成29年12月)



換気所工事(都筑区東方町)
(平成29年12月)

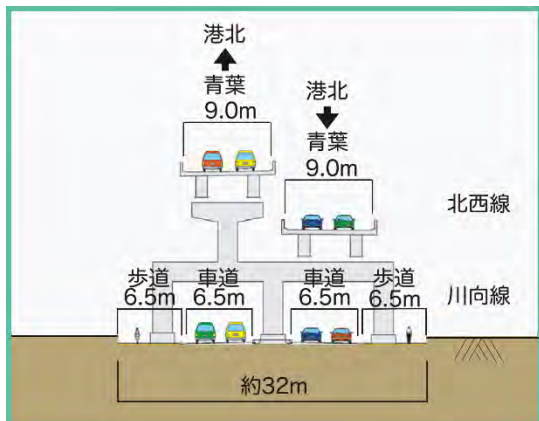
＜関連街路＞

川向線（川向地区）ほか

横浜港北ジャンクションには、北西線・横浜北線に乗り降りできる港北出入口（仮称）を新設します。

周辺の交通の流れをスムーズにするために、港北出入口と接続する関連街路を北西線の高架下等に整備します。

関連街路は、東京2020オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指す北西線に合わせて整備を進めます。



22億1200万円 (32億5486万円)

馬場出入口と一体的に整備する大田神奈川線は、法隆寺交差点から内路交差点までの区間について、関連街路事業として平成33年度を目標に往復4車線へ拡幅整備します。これにより高速道路ネットワークへの円滑なアクセスを確保するとともに、交差点周辺の混雑緩和、歩道整備による歩行者の安全性向上が期待できます。

※ 事業の位置図は「ア 横浜環状北西線」にて記載



工事実施状況(平成29年6月)

[illegible]

市民の皆様に向けたアンケート※では、利用した方から「早く目的地に着けるようになった」「ルートを選択肢が増えた」との回答をいただきました。一方で、「第三京浜道路港北インターチェンジから横浜北線へ出入りできないので不便」との回答もいただきました。また、整備中の横浜環状北西線については、「横浜都心部と東名高速道路が接続するので便利になる」「保土ケ谷バイパスや一般道路の混雑緩和を期待している」などの回答をいただきました。

※平成29年度第14回ヨコハマeアンケート（平成29年11月）
「横浜北線（高速道路）に関するアンケート」（回答者数：1,122人）



北線ファンラン(3月12日)



トンネルや橋梁工事等を実施している、国土交通省及び東日本高速道路株式会社と連携し、早期整備に向けて取り組めます。

また、南線・横浜湘南道路に乗り降りするインターチェンジに接続する関連街路（上郷公田線、田谷線、横浜藤沢線、環状3号線）の整備を進めます。



①栄IC・JCT下部工事
（栄区田谷町）
平成29年11月



②公田地区掘削試験工事
（栄区公田町）
平成29年11月



③釜利谷JCT Cランプトンネル工事
（金沢区釜利谷町）
平成29年11月

コラム② 圏央道の整備状況と横浜環状南線・横浜湘南道路について



圏央道は、都心から半径約40～60km、延長約300kmの高規格幹線道路で、全線の約9割が開通しています。

本道路の順次開通等により、都心から圏央道へ交通が転換しており、首都圏の物流が大幅に改善するとともに、大型物流施設等の民間投資も誘発しています。

圏央道の西側区間で、唯一の未開通区間である横浜環状南線と横浜湘南道路についても、早期開通に向けて、事業を推進します。

図面：「よこかんみなみHP」（東日本高速道路株式会社）資料を加工し作成

2 市内道路ネットワークの充実

(1) 都市計画道路等の整備【一部再掲】

57億5164万円（56億4384万円）

市域の一体性を高めながら都市機能の強化を図るため、都市計画道路等の整備を進めます。

- ・六角橋線【神大寺地区】（神奈川区）
- ・汐見台平戸線【別所地区など5地区】（南区・港南区・磯子区）【一部新規】
- ・鴨居上飯田線【本宿二俣川地区】（旭区）
- ・金沢シーサイドライン（金沢区）（30年度新駅舎完成、単線暫定供用予定）
- ・泥亀釜利谷線【寺前地区】（金沢区）【新規】
- ・宮内新横浜線【新吉田高田地区】（港北区）
- ・東京丸子横浜線【綱島地区】（港北区）【新規】
- ・環状3号線【戸塚地区、南戸塚地区、汲沢地区】（戸塚区）
- ・桂町戸塚遠藤線【上倉田戸塚地区】（戸塚区）など44箇所

(2) 国道の整備

12億3766万円（13億1734万円）

本市の道路ネットワークの骨格を担う国道の改良を進めます。

- ・国道1号【保土ヶ谷橋工区】（保土ヶ谷区）
- ・国道1号【不動坂交差点】（戸塚区）
- ・国道16号、国道357号電線共同溝整備（国直轄事業）など

コラム③ ～京浜急行金沢八景駅と繋がります 金沢シーサイドライン延伸工事～

まもなく橋梁工事が完了

金沢八景駅周辺の進捗状況



新駅舎の建築工事に着手しました（平成29年11月）



南側上空より見た金沢八景駅周辺（平成29年11月）

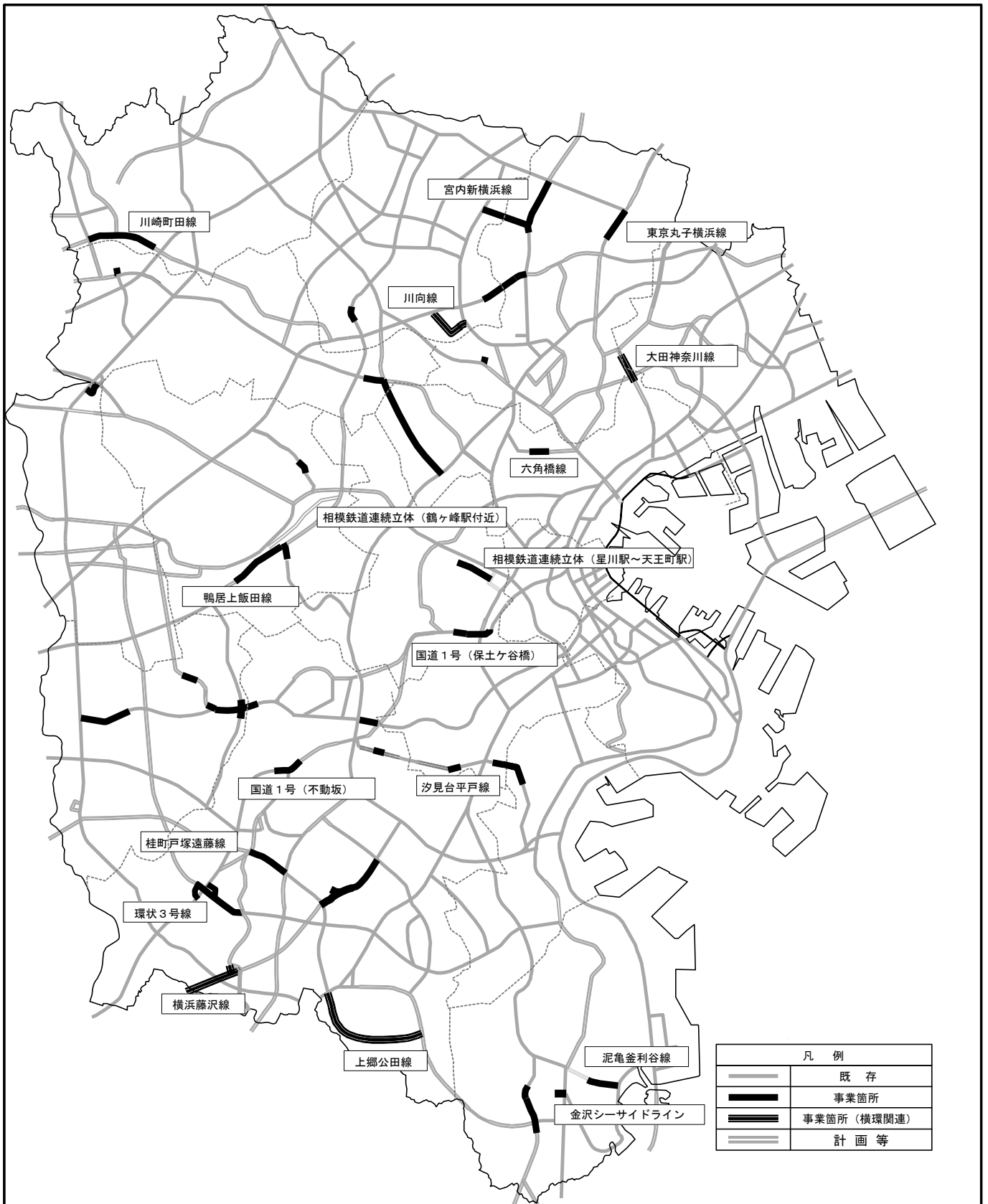
コラム④ 東京丸子横浜線【綱島地区】の整備について

都市計画道路東京丸子横浜線は、本市と東京・川崎方面を結んでおり、また第1次緊急輸送路にも位置付けられている重要な幹線道路です。現道は2車線で歩道も狭い状況であるとともに、神奈川東部方面線（仮称）新綱島駅の整備が進んでいることから、30年度より綱島駅から北綱島交差点までの区間について、拡幅整備を進めます。



現在の綱島街道の様子

主 な 事 業 箇 所



(3) 連続立体交差事業

32億3182万円（23億2247万円）

都市内交通の円滑化や都市の活性化を図るため、連続立体交差事業を進めます。

ア 相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業（保土ケ谷区）

30億7200万円（22億1567万円）

全線高架化は平成30年秋を予定しています。また、周辺の道路整備に向けた設計を行います。（29年3月の下り線高架化により、渋滞が大幅に解消されました。）

【実施区間：星川駅～天王町駅 約1.9km】

【踏切除却数：9箇所（すべて開かずの踏切）】



事業着手前



下り線高架化後

イ 相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業（旭区）

1億5982万円（1億680万円）

平成29年度に、連続立体交差化の構造形式について、鉄道を地下化する方式を採用することとしました。30年度は国の着工準備採択を受け、事業化に向けた都市計画決定・環境影響評価の手続きなどを進めます。

【事業区間：西谷駅～二俣川駅 約2.7km】

【踏切除却数：10箇所（うち開かずの踏切5箇所）】



踏切遮断による周辺道路渋滞状況（鶴ヶ峰2号踏切）

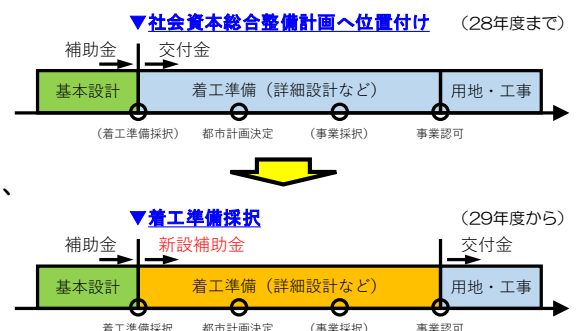


踏切（通学路）横断状況（鶴ヶ峰5号踏切）

コラム⑤ 着工準備採択とは？

28年度までは、基本設計等を実施後、自治体が社会資本総合整備計画に位置付け、交付金により着工準備を進めてきました。

しかし、着工後に事業が長期化する事例が多くあったことから、29年度からは国が着工準備採択した案件に限って補助金を配布し、着工準備段階から国が積極的に関与して円滑な事業進捗を後押しすることになりました。



コラム⑥ 都市計画道路の整備について

道路の混雑状況を示す指標である混雑度は、大都市の中で最も高くなっており、市内の道路は他の大都市と比較して、いまだ混雑している状況にあると言えます。

都市計画道路の整備は、渋滞の緩和に加え、生活道路からの通過交通の排除、防災力の強化などを図る上で、極めて重要ですが、本市の都市計画道路の整備率は大都市の中でも低い水準にあります。

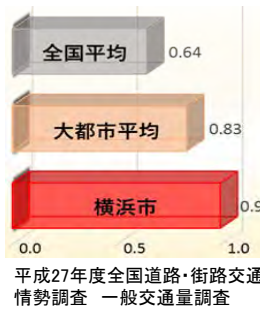
このため、現在事業中の路線の着実な整備や、道路ネットワークとして必要性の高い未着手の路線（優先整備路線）の事業着手に向けた検討を進めていきます。

大都市（政令指定都市と東京都特別区の21都市）の都市計画道路進捗状況

順位	都市名	整備率(%)
1	札幌市	96.3
2	名古屋市	93.7
3	神戸市	93.5
4	福岡市	88.4
5	大阪市	84.8
～		
17	岡山市	74.1
18	浜松市	69.4
19	新潟市	69.2
20	横浜市	67.5
21	さいたま市	64.5

平成27年度都市計画年報

平日の混雑度



コラム⑦ ～平成29年度中に開通（完成）!!～

市民生活や横浜経済を支える強靱な都市基盤を構築し、安全・安心で愛される道路・河川空間づくり、災害に強いまちづくりを進めています。

< 瀬谷区 >

- ★市道上瀬谷
第368号線外1
（瀬谷団地連絡道路）
【開通予定】
平成30年3月
延長：290m
幅員：15m



< 神奈川区 >

- ★新浦島橋
【開 通】
平成30年1月
橋長：49m
幅員：13m



< 西区・神奈川区 >

- ★鶴屋橋
【開 通】
平成29年9月
橋長：25m
幅員：16m



< 保土ヶ谷区 >

- ★JR岩間川橋梁
及び金沢橋
【完成予定】
平成30年3月
橋長：61m
幅員：9m



< 磯子区 >

- ★天神橋
【開通予定】
平成30年3月
橋長：30m
幅員：16m



< 泉 区 >

- ★榎太坂和泉線
（和泉地区）
【開通予定】
平成30年3月
延長：710m
幅員：25m



< 戸塚区 >

- ★市道戸塚
第420号線
（新宮之谷ト）
【開 通】
平成30年1月
延長：170m
幅員：13m



凡 例	
—	既 存
—	事業箇所
—	事業箇所(橋梁関連)
—	計 画 等(都計道)

(4) 道路改良【一部再掲】

22億288万円（23億3561万円）

市民生活やバス交通の利便性の向上を図るため、歩道設置や交差点改良によるボトルネックの解消等、市民生活に密着した道路改良事業を進めます。

- ・市道市場第197号線（鶴見区）【新規】
- ・県道青砥上星川【上菅田町地区】（保土ヶ谷区）
- ・市道上白根第99号線【白根六丁目地区など3地区】（旭区）
- ・市道谷津第232号線（金沢区）
- ・市道北八朔南部第387号線【三保町地区（その2）】（緑区）
- ・市道矢部第281号線（戸塚区）
- ・県道阿久和鎌倉【萩丸交差点】（泉区）など63箇所



市道北八朔南部第387号線
【三保町地区（その2）】（緑区）
当該道路を拡幅することにより、車両交通の円滑化、歩行者の安全性向上を図ります。



市道矢部第281号線（戸塚区）
当該道路を拡幅することにより、歩行者の安全性向上を図ります。

コラム⑧ 渋滞対策について

市内には多くの渋滞箇所があり、国や市などからなる「神奈川県移動性向上委員会」が自動車から得られる走行データ、いわゆるプローブデータを用いて把握した主要渋滞箇所だけでも142箇所あり、うち本市が管理する道路では99箇所になります

右折レーンの設置などの道路改良や都市計画道路の整備による道路ネットワークの強化により、旅行速度を改善させ、渋滞の解消を図っています。

<渋滞対策の効果>

- ・28年度に旭区において、丸子中山茅ヶ崎線（中原街道）のひかりが丘交番前交差点で、白根街道（上白根第99号線）を拡幅するとともに、動物園入口交差点の右折レーンを延長。
- ・これにより、鶴ヶ峰駅からブーラシア間のバスの平均遅延時間が、連休中の5月3日で比較し、整備前の約17分から約3分へ改善。



3 米軍施設返還跡地関連道路の検討

(1) 旧上瀬谷通信施設土地利用関連道路計画検討

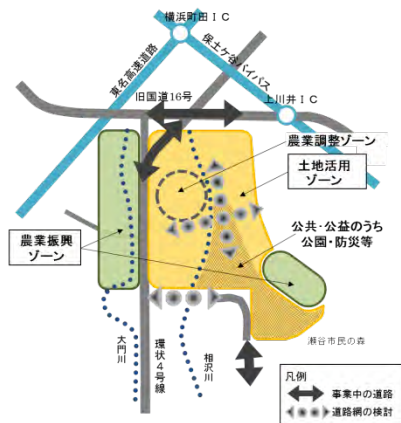
1000万円（1000万円）

旧上瀬谷通信施設（平成27年6月返還）では、民有地の地権者との土地利用検討とともに、国際園芸博覧会の招致に向けた検討も進められています。

道路計画では、跡地周辺の道路の現況や将来の土地利用計画を踏まえながら、地区内の道路や周辺幹線道路の検討を進めます。



旧上瀬谷通信施設の位置と道路交通基盤の状況



横浜市が提案した跡地利用ゾーン(案)(平成29年4月)

国際園芸博覧会イメージ

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会基本構想(素案)から抜粋



持続的な未来社会と博覧会を支えるグリーンインフラ
自然の持つ多様な機能を活用し、持続可能で魅力・活力ある地域づくりや心身の健康増進と、継続的な環境創造・負荷軽減を進めます。

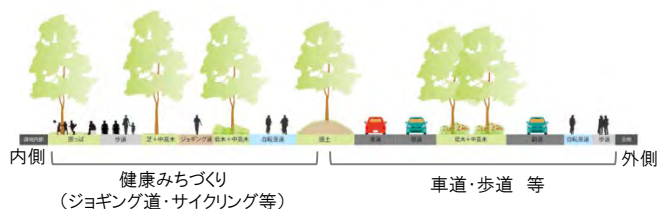
開催場所	旧上瀬谷通信施設	入場者規模	1,500万人以上を想定
開催期日	2026年4月～9月	開催組織	国が認定する法人等
会場規模	80～100haを想定		

(2) 旧深谷通信所跡地利用関連道路計画検討

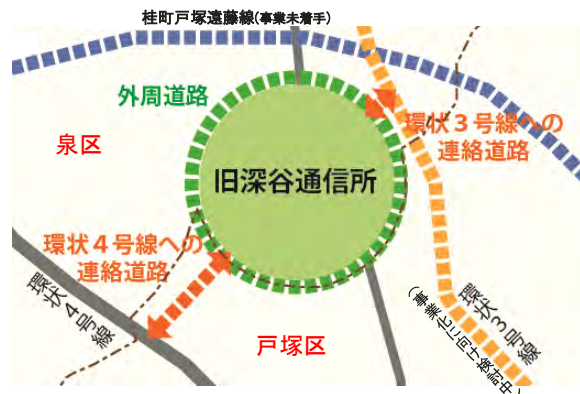
2000万円（2000万円）

旧深谷通信所跡地（平成26年6月返還）において、跡地利用計画を踏まえ、健康みちづくりにも寄与する外周道路及び環状3号線・4号線との連絡道路について検討を進めます。

<外周道路イメージ>



<検討位置図>



Ⅱ 市民生活の安全・安心の確保

～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

1 防災・減災対策

(1) 地震対策（橋梁・歩道橋） 4億5210万円（8億3000万円）

ア 橋梁の地震対策 2億7800万円（6億3000万円）

阪神・淡路大震災における被害を踏まえ、緊急輸送路上にある橋や鉄道や高速道路を跨ぐ橋等から優先的に倒壊や甚大な被害を防止する対策を進めています。また、それ以外の場所に架かる橋梁についても地震対策を進めます。

(ア) 重要橋梁（緊急輸送路上の橋、跨線橋など）

- ・耐震補強 万里橋（西区）
- ・架替え かたぶき人道橋（金沢区）

(イ) 一般橋梁（重要橋梁以外の橋）

- ・耐震補強 安善橋（鶴見区）
富士見橋（神奈川区）
樽網橋（港北区）



架替え工事が完成した新浦島橋(神奈川区)

イ 歩道橋の地震対策 1億7410万円（2億円）

緊急輸送路上の歩道橋から優先して、耐震補強を進めます。

- ・本村ランプ西口歩道橋（旭区）
- ・六浦歩道橋（金沢区）
- ・三ツ境歩道橋（瀬谷区）



落橋防止装置:西町歩道橋(磯子区)

コラム⑨ 地震に強い都市づくりの推進

災害時の消火活動や救助活動、緊急物資の輸送機能確保のため、緊急輸送路となる高速道路や18m（4車線相当）以上の幹線道路の整備を進めます。

また、橋梁の耐震補強や架替え、歩道橋の耐震補強、無電柱化の推進などにより、緊急輸送路の地震対策を進めます。



橋脚巻き立て等の耐震補強工事が完了した夕照橋（金沢区）

(2) 無電柱化推進事業

7億5587万円（4億8300万円）

発災直後の応急対応に寄与する路線として、緊急輸送路、とりわけ無電柱化路線の環状形成に資する3路線（環状2号線、山下本牧磯子線、鶴見溝ノ口線）や、区役所へのアクセス道路などを優先して、電線共同溝の整備を進めます。また、国の動向を踏まえつつ「横浜市無電柱化推進計画」を策定します。

ア 緊急輸送路

- ・環状2号線【駒岡・上末吉地区】（鶴見区）
- ・山下本牧磯子線【新山下地区】（中区）
- ・山下本牧磯子線【原町地区】（磯子区）
- ・鶴見溝ノ口線【市道下末吉第161号線】（鶴見区）（平成30年度完成予定）
- ・横浜上麻生線【市ケ尾地区】（青葉区）など7路線18地区

イ 区役所へのアクセス道路

- ・港南区役所、南区役所、金沢区役所、栄区役所、青葉区役所

（横浜上麻生線【市ケ尾地区】再掲）

無電柱化の状況（山下本牧磯子線【西町地区】、平成29年度完成）



整備前



整備後

コラム⑩ 無電柱化の推進に向けた取組

■「道路法第37条に基づく緊急輸送路における新たな電柱の占用制限」施行（平成29年4月1日）

道路法第37条の改正に伴い、地震等の災害が発生した場合における緊急輸送路や避難路としての機能を確保するため、区域を指定して新たな電柱の占用制限を全国に先駆け開始しました。

対象区域：第1次緊急輸送路の全線など
約220km

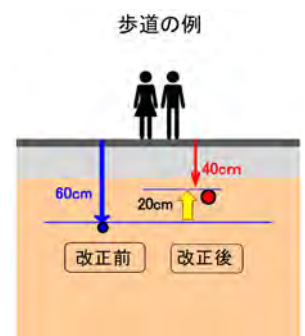
■「無電柱化推進計画（仮称）」の策定

以下の観点から、無電柱化を推進する路線等を検討しています。今後、関係事業者の意見や国の動向を踏まえつつ、推進計画をとりまとめます。

- 都市の防災力の向上の観点
緊急輸送路や区役所、土木事務所等へのアクセス路
- 良好な都市景観形成や観光振興の向上の観点
都心部や主要な観光地の道路
- その他、道路の新設や改築、市街地開発事業が実施される場合は、無電柱化に取り組む。

■「道路占用許可基準の改正による電線類の埋設深さの基準緩和」施行（平成29年4月1日）

国が緩和した電線等の埋設に関する基準を参考に、本市道路占用許可基準を改正し、埋設深さを従来に比べ20cm浅くすることで事業コストの縮減を図ります。



□「無電柱化の推進に関する法律」施行（平成28年12月）

国等の責務を定めるほか、国に無電柱化推進計画の策定を義務付け、都道府県市町村には策定を努力義務にするなど、無電柱化に関する施策を迅速に推進することとしています。

(5) 道路がけ防災対策事業

1億5600万円（1億7000万円）

道路を利用する市民の安全と交通機能確保のため、緊急輸送路やバス路線など重要な道路に面した箇所などについて、点検結果に基づく予防保全のための対策工事を進めます。

- ・ 鶴見区駒岡三丁目
- ・ 保土ヶ谷区権太坂三丁目
- ・ 保土ヶ谷区岩井町
- ・ 都筑区東方町
- ・ 泉区新橋町

磯子区岡村二丁目の対策



対策前



対策後

コラム⑬ 延焼遮断帯の形成

大規模地震時における延焼被害の軽減を図るため、延焼範囲を分断する都市計画道路を整備するとともに、その沿道の建築物について不燃化を図り、延焼遮断帯を形成します。

※整備を進める都市計画道路
六角橋線〔神奈川区〕、汐見台平戸線〔南区〕、
泥亀釜利谷線〔金沢区〕



コラム⑭ 災害時に備えて

災害時に備えて次の団体と防災協定を締結しており、横浜市総合防災訓練や道路局震災対策訓練を通じて連携を図っています。

- ・ (一社) 横浜建設業協会
- ・ (一社) 神奈川県建設業協会横浜支部
- ・ (一社) 神奈川県測量設計業協会
- ・ (一社) 横浜市地質調査業協会
- ・ (一社) 横浜市建設コンサルタント協会
- ・ (一社) 日本建設機械レンタル協会神奈川支部
- ・ 神奈川県レンタル業協会

また、緊急輸送路のリスク把握をはじめ、発災時に懸念される橋台背面等における段差を速やかに解消するため、軽量段差修正材など応急対策機材の配備に取り組んでいます。



道路啓開訓練(平成29年度横浜市総合防災訓練)

3 誰もが安全・安心に利用できる道路空間

(1) 通学路安全対策事業【一部再掲】

25億2684万円（22億9544万円）

スクールゾーン対策協議会での点検などを踏まえ、歩行空間の確保やあんしんカラーベルトの整備など引き続き通学路の安全対策を重点的に推進します。

ア 歩道設置等

24億838万円（21億8198万円）

地域の方々や小学校と連携し、通学路における歩行空間の確保や自転車通行空間整備などの交通安全対策を推進します。

- ・市道平戸第486号線（南区）
- ・市道下田第97号線（港北区）【新規】
- ・市道新羽荏田線第7008号線（都筑区）
- ・市道宮沢第306号線（泉区）など70箇所



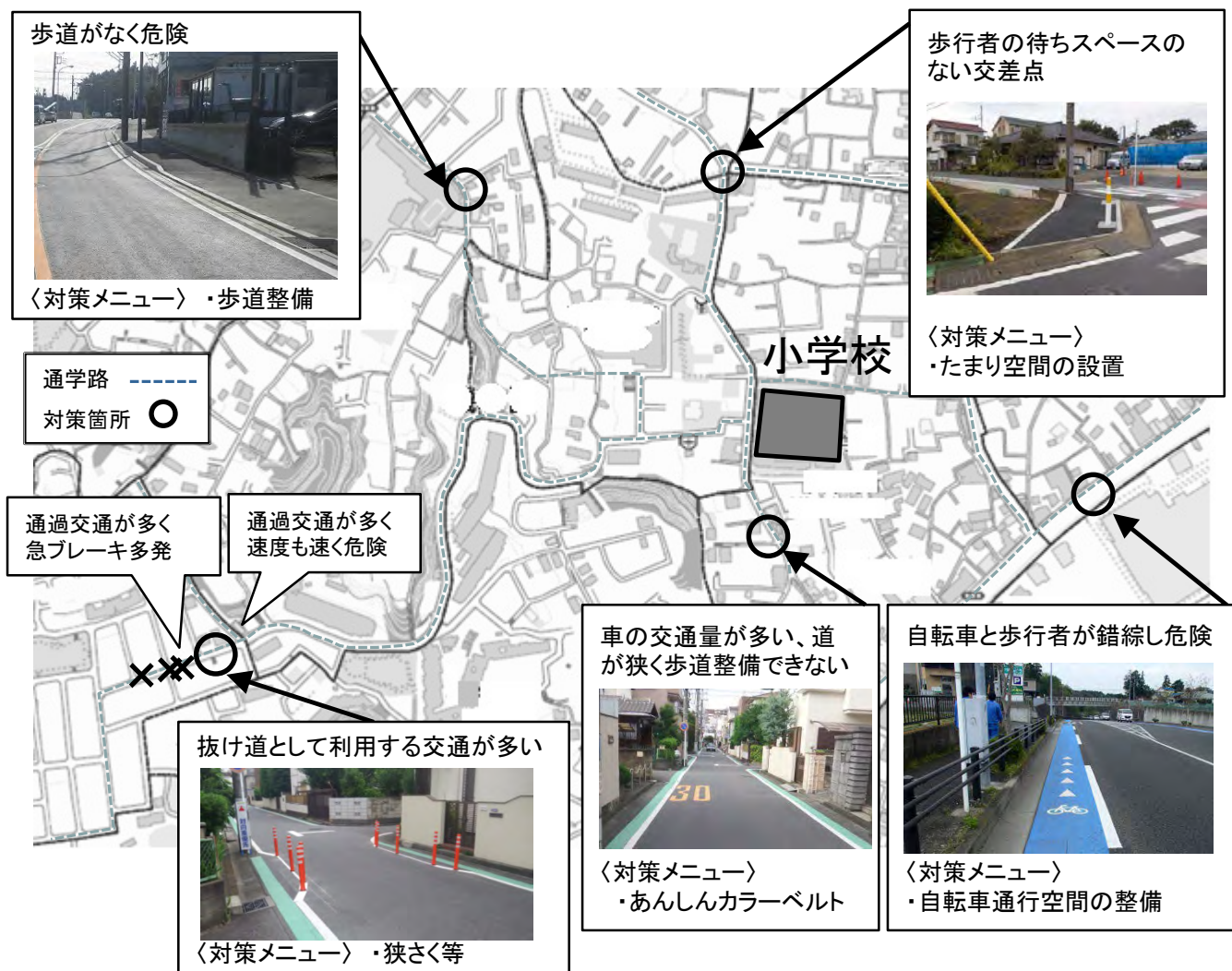
市道下田第97号線（港北区）

イ あんしんカラーベルトの整備

8100万円（8600万円）

歩道設置が困難な道路でも歩行者スペースを視覚的に認知でき、安全対策として効果がある「あんしんカラーベルト」の整備を推進します。（全18区）

通学路安全対策のイメージ



ウ 新たな対策手法の導入

2000万円（1000万円）

通学路をはじめとした生活道路において、港北区大倉山地区の社会実験を踏まえ、ビッグデータを活用した安全対策の検討や車両の走行速度を抑制する狭さくの設置など新たな対策手法の導入を他の地域でも進めます。

エ 児童交通安全対策

1746万円（1746万円）

小学生を対象に歩行時、自転車乗車時のルールを指導教育する「はまっ子交通あんぜん教室」を開催します。

また、「スクールゾーン活動のしおり」「はたふり誘導ハンドブック」等を作成することにより、スクールゾーン協議会への活動を支援します。

（2）踏切の安全対策（歩行者対策）

3億9000万円（4億3163万円）

「横浜市踏切安全対策実施計画」（平成28年3月）に基づき、跨線人道橋整備等の安全対策を進めます。

ア 跨線人道橋の整備

- ・ 生見尾踏切（鶴見区）
- ・ 樹源寺踏切（保土ヶ谷区）

イ 踏切拡幅

- ・ 古市場踏切（鶴見区）【新規】
- ・ 杉田第2踏切（磯子区）



生見尾跨線人道橋
（鶴見区）

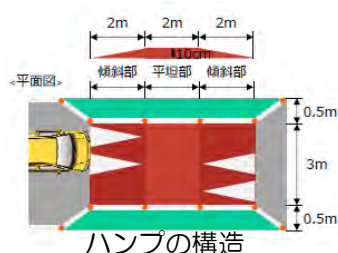
（3）連続立体交差事業【再掲】

32億3182万円（23億2247万円）

コラム⑰ ビッグデータを活用した交通安全対策

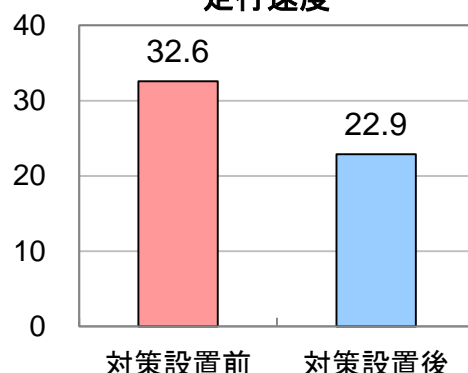
ETC2.0車載器に記録された運転データ（走行履歴や挙動履歴）を道路沿いに設置された通信施設を通じて国土交通省が収集し、急ブレーキが多発しているポイントや速度超過が多発している区間などを分析します。港北区大倉山地区においては、分析により速度超過区間が明らかになったため、道路の一部を高さ10cm盛り上げることなどにより、物理的に走行速度を低減させる実証実験を1か月間実施しました。

その結果、実験中は、走行速度がおよそ時速10km減少するなど速度を抑制する効果が認められました。



速度（km/h）

走行速度



社会実験の結果（ETC2.0の分析結果）
対策前29年9月と対策後29年10月の比較

Ⅲ 魅力あるまち・みちづくり

～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

1 まちの利便性向上

(1) 歩行空間の改善・拡充

8億6544万円（7億3182万円）

ア バリアフリーの推進

1億5724万円（2億1682万円）

駅周辺のバリアフリー化を推進するため、バリアフリー法に基づく基本構想の検討・策定を進めます。

・戸塚区、保土ヶ谷区

また、基本構想を策定した地区から、歩道の段差改善等バリアフリー歩行空間の整備に向けた計画策定、及び、整備を進めます。

・十日市場駅周辺地区（緑区）

・戸塚駅、東戸塚駅、舞岡駅周辺地区（戸塚区）など12地区

イ 都心部の回遊性向上に資する歩行空間の拡充

1000万円【新規】

関内地区の回遊性確保に向け、歩行者動線や自転車ネットワークの強化に取り組みます。

現市庁舎と県庁とを結ぶ「みなと大通り」をモデルとして、歩道の拡幅や自転車通行空間の設置、イベントもできる魅力ある空間にするなど、シンボリックな空間として再整備するための検討を進めます。



ウ 大岡川横断人道橋の整備（平成31年度～32年度 12億円 債務負担設定）

6億8320万円（5億円）

J R及び地下鉄桜木町駅から、開発が進められている北仲通地区への歩行者交通量増加に伴う動線の確保と利便性の向上、みなとみらい21や関内等周辺地区との回遊性向上のため、平成32年度の供用開始を目指し、引き続き歩行者専用橋の工事を進めます。

エ 鶴見川中下流域の橋梁間隔短縮検討

1500万円（1500万円）

鶴見区「新鶴見橋～末吉橋」間、港北区「新羽橋～新横浜大橋」間について橋梁新設に向けて調査・検討を進めます。

(2) 交通結節点の整備

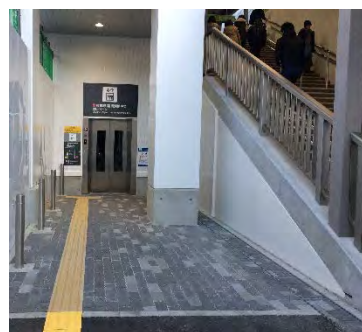
1億5600万円（1億7722万円）

ア 菊名駅バリアフリー化事業 1億2700万円（1億6722万円）

交通結節点の機能強化のため、平成25年度から菊名駅の東西通路及び乗換通路のバリアフリー化を

鉄道事業者と進めており、29年12月に供用開始しました。

30年度中の事業完了に向け、引き続き工事を進めます。



西口エレベーターおよび西口階段(新設)

イ 保土ヶ谷駅東口ほか駅前広場再整備 1900万円【新規】

バリアフリー化が課題となっている駅前広場において、エレベーター設置等の設計を進めます。

ウ 住み続けたいまち・みちづくり推進事業

1000万円（1000万円）

誰もが住み続けたいと思えるまちを目指して、駅周辺の利便性や魅力の向上につながるみちづくりの調査・検討を進めます。また「戸塚駅周辺地区住み続けたいまち・みちづくりプラン」の策定に向けた地域・事業者等との調整や、関連する事業を進めます。

（3）自転車施策の総合的な推進【一部再掲】

23億8837万円（24億1780万円）

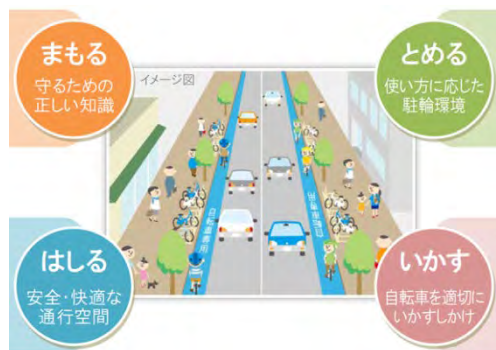
「横浜市自転車総合計画」に基づき、自転車利用のルール・マナーの周知、自転車通行空間の整備、駐輪環境の充実及び放置防止対策、自転車活用推進などの自転車施策を総合的に進めます。

ア 自転車総合計画の施策推進

6400万円（2900万円）

- ・ルールを学べる教育の機会の充実
- ・自動車運転者向け、自転車思いやり啓発運動の実施
- ・モデル地区における「自転車通行空間整備実行計画」の策定
- ・新たな料金制度や民間のノウハウのさらなる活用についての検討
- ・自転車活用推進法を受けた自転車総合計画の見直し

自転車総合計画で取り組む4つのテーマ



イ 有料自転車駐車場の管理運営

16億817万円（16億1442万円）

- ・242箇所

ウ 自転車等放置防止対策

5億1270万円（5億3512万円）

- ・放置自転車の移動 115駅（全区）
- ・マナーアップ監視員による啓発等

エ 自転車駐車場の維持・補修

1億6600万円（2億2026万円）

- ・戸塚駅西口第十自転車駐車場（戸塚区）など

オ 自転車通行空間の整備

3750万円（1900万円）

- ・市道新羽荏田線（都筑区）など3箇所

コラム⑱ 自転車駐車場附置義務制度の条例化

本市では、昭和60年に制定した「横浜市自転車等の放置防止に関する条例」に基づき、市営自転車駐車場（以下「駐輪場」といいます。）の整備や放置自転車の移動作業等を行い、駅周辺の駐輪状況は大きく改善されてきています。しかし、一部の地域では買い物などで集客施設を利用する方の放置自転車が課題となっています。

店舗等への来訪者が利用する駐輪場は、集客施設側で整備すべきですが、本市では一部を除き、集客施設に駐輪場の設置を義務付ける制度がなく、昨年6月に策定した「自転車総合計画」で制度化を検討することとしています。

また、共同住宅についても、一部を除き駐輪場の設置を求める制度がなく、マンション等の周辺に自転車等が放置されている状況があります。

そこで、市民の生活環境の保全及び都市機能の維持を図り、良好な都市環境の形成に資するため、「横浜市自転車駐車場の附置等に関する条例」の制定を予定しています。

2 地域交通の確保に向けた取組

人口減少や超高齢社会の到来など社会情勢が変化する中で、市民の日常生活の利便性を確保するため、生活交通として必要なバス路線を維持するとともに、地域の主体的な取組による新たな移動手段の導入やバス路線の再編に向けた支援を進めていきます。

(1) 地域交通サポート事業 1966万円（2460万円）

ア 地域が主体となった移動手段の確保に向けた取組への支援 1046万円（1860万円）
新たなバス路線の導入及び再編の支援を進めます。

また、地域や事業者が取り組みやすい仕組みの構築を目指し、支援の拡充について検討します。

イ 移動手段の確保に向けた新たな取組 920万円（600万円）

(ア) 地域の共助による移動手段の確保に向けた取組

実証運行の効果検証や、持続可能な運行に向けた制度の検討を進めます。

・山下地区（緑区） ・都田、池辺地区（都筑区）

(イ) 民間と連携した地域の移動手段の確保に向けた取組

病院や商業施設など、民間の主体が運行する送迎バスを地域の移動手段に活用する検討を引き続き進めていきます。

・すすき野地区（青葉区）



地域の共助によるボランティアバス



民間が主体となり運行する送迎バスの活用

(ウ) 今後の地域交通施策の検討

地域の移動に関する多様なニーズを踏まえ、効率的なバス路線の再編や乗合タクシーの導入等による地域交通の維持・充実にに向けた検討を交通事業者と連携して進めます。

(2) 生活交通バス路線の維持支援 3億8337万円（4億2764万円）

市民の日常生活の利便性を確保するため、生活交通として必要な16路線に対し補助金を交付し、バス路線を維持します。

コラム⑱ 地域交通サポート事業による取組

地域のニーズにあった交通手段の導入に向けて、地域の主体的な取組がスムーズに進むように、実現までの活動に対して様々な支援を行っています。取組を通じて、地域でバス路線を作る、守る意識が広がり、利用者が増え、持続可能なバス路線の整備につながっていきます。

この事業の活用により13地区でバス路線の新設・再編などが本格運行に至りました。現在は3地区で実証運行を実施、4地区で実証運行を目指して活動しています。



境木地区（保土ケ谷区）における実証運行開始の様子

3 まちの魅力創出

(1) 健康みちづくり推進事業

6520万円（7950万円）

「健康みちづくり推進事業実施計画」に基づき、選定したプロムナード等において、舗装、案内サインやベンチの設置など、楽しみながら健康づくりに取り組める歩行空間の整備を進めます。

- ・西区、瀬谷区など8地区



平成29年度整備事例：神奈川区
水と緑豊かな安らぎのルート



平成29年度整備事例：金沢区
旧海岸線を感じながら、歴史・海・緑をめぐるルート



平成29年度整備事例：鶴見区
広域版 横浜旧東海道ルート



平成28年度整備事例：緑区 旭区
広域版 山と緑を感じる自然豊かなルート

ベンチの設置にあたっては、「横浜サポーターズ寄附金」のメニューのひとつである「ハマサポベンチ」の募集を継続し、市民の皆様の寄附金を活用していきます。

